

平成 20 年第 1 回庄原市議会定例会

一般質問通告者 及び 質問事項

(3月12日、13日)

質問順位

- | | |
|----------|----------|
| 1. 門脇俊照 | 2. 横路政之 |
| 3. 藤木邦明 | 4. 名越峯壽 |
| 5. 横山邦和 | 6. 田中五郎 |
| 7. 赤木忠徳 | 8. 谷口隆明 |
| 9. 宇江田豊彦 | 10. 小谷鶴義 |
| 11. 和田満福 | 12. 溝口致哲 |
| 13. 林高正 | 14. 谷口勇 |
| 15. 岡村信吉 | 16. 藤山明春 |
| 17. 垣内秀孝 | 18. 松浦昇 |

庄原市議会

平成20年3月定例会 一般質問

順位	質問議員	項目	ページ
1	門脇俊照	本市が直面している課題について	1
2	横路政之	自主財源確保のため寄附条例の制定を	2
		視覚障害者のための音声コードの導入について	3
		鳥獣被害防止について	4
3	藤木邦明	格差社会の改善と市の財政運営の基本について	5
		徹底した情報公開について	
		資源ごみと紙おむつの無料収集について	6
		小学校の統合後の校舎の活用について	
4	名越峯壽	庄原市長期総合計画の進捗状況について	7
		自給率の向上、農業所得の10%アップ、耕作放棄地の活用について	8
		産婦人科対策について	9
		学校給食は安心、安全でなくてはならない	10
		放課後子どもプランについて	11
5	横山邦和	庁舎建設について	
		生活交通対策について	
		エタノール工場建設補助金について	
		教育問題	12
6	田中五郎	協働のまちづくりについて	
		中国横断自動車道尾道松江線対策について	
		農業振興対策について	14
7	赤木忠徳	笑顔が見える庄原市をめざして	15
		他市から入校したい学校づくり	17

順位	質問議員	項目	ページ
8	谷口 隆明	施政方針と財政運営について	19
		木質バイオマス活用プロジェクトについて	20
		交通弱者への対応について	21
		米の減反政策などについて	22
9	宇江田 豊彦	施政方針について	23
		権限移譲の体制づくりについて	25
		学校での教職員労働安全衛生について	26
10	小谷 鶴義	地域事務所の再編について	27
		新年度予算について	
11	和田 満福	合併3年目を振り返って	30
		災害時の危機管理及び避難場所の点検について	31
		市税等の滞納処理及びコンビニ収納の導入について	32
12	溝口 致哲	バイオマстаウン構想について	33
13	林 高正	保育現場の現状について	35
		庄原市のめざす教育とは	36
14	谷口 勇	施政方針について	37
		幼児教育への支援について	38
15	岡村 信吉	基幹産業の振興について	39
		組織、機構の見直しについて	40
16	藤山 明春	定住促進について	41
		有害鳥獣対策について	42
		ペレットストーブについて	43
17	垣内 秀孝	農業振興施策について	44
18	松浦 昇	政治姿勢と市政運営について	45
		公平、公正な入札、契約をめざす条例制定について	46
		若者の要求にこたえる市政づくりについて	47

順位	1	質問者	門脇 俊照	
項目	質問の要旨			答弁を求める者
1. 本市が直面している課題について	<p>少子、過疎、高齢化、さらに限界集落、離農、孤独死。嫌な言葉だが、頻繁に聞かれるようになった。どの言葉も重たく、改善の特効薬はいまだ見出すことはできていない。合併当初から難問題に直面されている市長に今日まで感じてきた次のことを伺う。</p> <p>①少子について 減少し続ける子ども数の歯止め対策は。</p> <p>②過疎について 定住促進施策の成果は出ているか。</p> <p>③高齢化について 後期高齢者保険がはじまる。高齢者が安心して暮らすには何が必要か。また、どのような心構えが必要か。</p> <p>④限界集落について 65歳以上の方が半数以上の集落は、本市に何集落あるか。それ以上の集落も多くあると思うが、集落の維持は可能か。</p> <p>⑤離農、農作地放棄について 近年農林業をやめた農家数の実体はどのくらいか。魅力ある農林業は実践可能か。</p> <p>⑥孤独死について 家族・親族の絆が気薄になりつつある今日、行政に頼らざるを得ない。行政福祉には限界があるが、施策はあるか。</p>		市長	

順位	2	質問者	横路 政之	
項目	質問の要旨			答弁を求める者
1. 自主財源確保のため寄附条例の制定を	<p>都市と地方の税源の格差是正のため、地域再生対策費 4,000 億円やふるさと納税制度が創設された。特にふるさと納税は生まれ故郷の自治体などへ、自分の住民税の一部を寄附できるというものであり、自治体側からすると、地元の自然や文化など、魅力ある地域の財産を創意工夫し、アピールすることで、地域活性化策として活用することができる。</p> <p>①本市の平成 19 年度の寄附金の額はいくらか。</p> <p>②ふるさと納税制度に対して、具体策は考えているか。</p> <p>③自主財源確保と住民参加型の協働のまちづくりのため、また個性と夢のある政策実現のために、寄附条例を導入すべきではないか。</p>			市長

順位	2	質問者	横路 政之	
項目	質問の要旨			答弁を求める者
2. 視覚障害者のための音声コードの導入について	<p>我が国の視覚障害者は約30万人いると言われている。交通事故や病気を原因とする中途失明者の増加などにより、点字を習得できない人が、全体の9割を占めている。途中で点字を習得する作業は大変難しく、点字の読み解きができずに文字による情報が得られないために、不自由を強いられている。こうした情報格差を埋める技術として、音声コードが開発された。専用の活字文書読み上げ装置を使えば、視覚障害者は、耳でその内容を知ることができる。昨年、視覚障害者等情報支援緊急基盤整備事業が国の補正予算の中に盛り込まれ、音声コードを全国に普及するための枠組みがつくられた。平成19年、20年度で必要な機器やソフトの整備を行うものだ。視覚障害の方の苦悩は健常者には推し量ることができない大きなものがあると思う。本市においても早期の導入を図るべきと思うが、考えを伺う。</p>			市長

順位	2	質問者	横路 政之	
項目	質問の要旨			答弁を求める者
3. 鳥獣被害防止について	<p>過疎化が進んで人口が減り、高齢化が進んでいる地域では、鳥獣被害（イノシシ、サル）が深刻だ。こうした実態を踏まえ昨年12月、野生動物による農業被害を防止する、鳥獣被害防止法が成立した。これにより農水相が定めた基本指針に沿って、市町村が被害防止計画をつくり、地域の特性にあわせて機動的に実施することができるようになった。</p> <p>また、広島県においても（イノシシ3万頭駆除事業）として、3,400万円の予算づけが行われている。</p> <p>①本市における被害防止計画はどうされるのか。</p> <p>②広島県の3万頭駆除に対して、本市としてどのように対応しようと考えているか。</p> <p>③駆除は猟友会に頼っているのが現実だ。実際にかかる経費を聞くにつけ、補助の額を増やしてもいいと思うが、考えを伺う。</p> <p>④猟友会のグループ数、団体人数はどれくらいか。なお、昨年の捕獲数はどれくらいか。</p>			市長

順位	3	質問者	藤木 邦明	
項目	質問の要旨			答弁を求める者
1. 格差社会の改善と市の財政運営の基本について	<p>①格差社会の改善が必要と考えているか。必要と考えているなら、どのような対策が必要だと考えているか。</p> <p>②市庁舎など普通建設事業費の節減はできるのか。</p> <p>③市長は、新年互例会で、市庁舎の建設請負業者は赤字になると明言したが、その根拠は何か。</p> <p>④市長の退職金を公約どおり減額すべきではないか。</p> <p>⑤職員の上厚下薄の賃金体系は時間をかけて見直すべきではないか。</p>			市長

順位	3	質問者	藤木 邦明	
項目	質問の要旨			答弁を求める者
2. 徹底した情報公開について	<p>①市民の代表である市議会議員が必要とする情報の提供を求めた場合は、情報公開が禁止されているもの以外は、積極的に情報を提供するよう徹底すべきではないか。</p> <p>②責任の所在を明確にするため、庄原市総合サービス（株）等の運営する保育所名と職員名、同じく庄原市総合サービス（株）の運営する総合体育館名と職員名、同じく庄原市総合サービス（株）の請け負う共同調理場名と職員名についても、会社と職員の同意を求め、市の機構と職員名に含め、積極的に公開すべきではないか。</p>			市長
3. 資源ごみと紙おむつの無料収集について	<p>市民の負担を軽減するため、資源ごみと紙おむつについては無料収集すべきではないか。</p>			市長
4. 小学校の統合後の校舎の活用について	<p>高齢者の共同住宅として改修し、活用したらどうか。</p>			教育長

順位	4	質問者	名越 峯壽	
項目	質問の要旨			答弁を求める者
1. 庄原市長期総合計画の進捗状況について	<p>げんきとやすらぎのさとやま文化都市をめざして、平成18年から平成27年の長期総合計画が示されたが、いまだ何も見えない。庄原市街地は、庁舎、備北丘陵公園などの動きはあるが、庄原に準ずる市街地区域、特に東城は東の拠点として整備を推進するとあるが、次の項目について地域の整備はどのくらいか。また、具体的に各年度ごとの事業計画を伺う。</p> <p>①安心と快適をもたらす都市基盤の整備（道路網の充実、道路改良、公営住宅の整備等）について</p> <p>②暮らしの質を高める都市機能の充実（広域都市間公共交通網の整備、巡回バスの整備（町と町を結ぶバス）、教育環境の整備、自治総合センター建設、図書館建設、小児可保育所整備等）について</p> <p>③田園環境と調和する都市空間の整備（ゆとりある街並みの整備）について</p>			市長

順位	4	質問者	名越 峰壽	
項目	質問の要旨			答弁を求める者
2. 自給率の向上、農業所得の10%アップ、耕作放棄地の活用について	<p>①次の事項について、年次別対策と指導方針を伺う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・補助事業で整備したほ場の耕作放棄地の利活用対策について ・農業、畜産業、林業の生産所得10%アップの指導と対策について ・安心、安全な面から、庄原市の自給率向上は絶対必要と思うが、方針、対策について <p>②庄原市全体で次の面積について伺う。また、ほ場整備農地の耕作放棄地については旧市町ごとにどのようにになっているのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水田面積 ・ほ場整備面積 ・転作面積 ・ほ場整備農地の耕作放棄地 			市長

順位	4	質問者	名越 峰壽	
項目	質問の要旨			答弁を求める者
3. 産婦人科対策について	<p>全国的に産婦人科の医師不足、特に地方は大きな問題だ。本市では、平成17年度、第1子119人、第2子135人、第3子以上67人、合計321人。平成18年度、第1子101人、第2子102人、第3子以上58人、合計261人だ。それぞれの家庭、特に妊婦の心配、不安は計り知れないものがある。</p> <p>①今後の対応、対策をどのように考えているのか。</p> <p>②当面の対策として、三次中央病院の近くにマンションを建設する対応を考えてはどうか。</p>			市長

順位	4	質問者	名越 峰壽		
項目	質問の要旨			答弁を求める者	
4. 学校給食は安心、安全でなくてはならない	<p>食育教育をどのように指導されているか。</p> <p>中国のギョーザ中毒から始まって、特に学校の給食はどのように対応されているか、次の事項について伺う。</p> <p>①この件について、各学校に伝達、指導をどのように徹底されたのか。経費を安くするために、国産以外の製品、手間をかけない加工食品の使いすぎ、地産野菜を避けていることはないか。</p> <p>②米以外の農作物、野菜等地産地消の割合はどうか。</p> <p>③地産地消について学校間の格差、指導について。</p> <p>④パン給食が学校ごとに差があるがなぜか。</p> <p>⑤センター方式、自校方式についてそれぞれの欠点を伺う。</p>				教育長

順位	4	質問者	名越 峰壽	
項目	質問の要旨			答弁を求める者
5. 放課後子どもプランについて	<p>周辺部から市街地に働きに出ると片道60分以上かかる。親は子どものことが心配、でも生活が大変なので働きに出なくてはいけない。保育はもとより、小学生は家に帰っても誰もいない家庭が多い。ある家庭では、帰ると内から鍵をかけて誰が来ても開けない。親が帰らない限り開けない。</p> <p>①教育委員会の主導で、福祉と連携を図り、すべての小学校区ですべての学校、すべての子どもを対象として放課後の子どもの安全、安心な活動の場を確保し、総合的な放課後対策として実施する放課後子どもプランについてどのような考え方なのか。20年度からの方針はどうか。</p> <p>②広島県放課後子ども教室推進県費補助事業があるが、どのように活用するのか。</p>			教育長

順位	5	質問者	横山 邦和	
項目	質問の要旨			答弁を求める者
1. 庁舎建設について	空調設備を地下熱及びバイオマスの利用と発表されたが、従来の設備と比較してどうなのか、改めて伺う。			市長
2. 生活交通対策について	道路事情等の関係でサービスの受けられない地域が存在しているが、これらへの対策はどのように思われるか。全体的な検討もされているが、今後の方針も伺う。			市長
3. エタノール工場建設補助金について	研究結果の公表と工場建設に対する展望等を伺う。			市長
4. 教育問題	①学校給食等の食材の値上げ、また安全対策等、取り組みの状況を伺う。 ②中学校の進路指導の取り組み状況を伺う。 市外校への進学はどの程度あるのか、あわせて伺う。			教育長

順位	6	質問者	田中 五郎	
項目	質問の要旨			答弁を求める者
1. 協働のまちづくりについて	<p>①これぞ協働のまちづくりという事例を3つ伺う。</p> <p>②ふるさと納税制度は協働のまちづくりの大きな柱の1つになり得ると思うが、それへの取り組みは。</p> <p>③上野総合公園は、協働のまちづくりの最高モデルになり得ると思うが、</p> <p>(1) 現状はどうか。</p> <p>(2) 計画はあるのか。</p>			市長
2. 中国横断自動車道尾道松江線対策について	<p>施政方針では、引き続き事業協力と早期開通に向けた要望活動を行ってまいりますとあるが、</p> <p>①要望活動の裏付けは沿線の地域振興計画のはず。それへの取り組みの現状と計画は。</p> <p>②高野インターについては、単なる通過点ではなく、道の駅が不可欠と考える。それへの取り組みは。</p> <p>かつての広島地方建設局長岩井國臣氏は中国地域づくり交流会を設立、道の駅実現。県境の山、大万木山頂で県境サミットを行うなど、建設局職員ともども、横断道への取り組みをしていただいた経過があるが、現状と計画は。</p>			市長

順位	6	質問者	田中 五郎	
項目	質問の要旨			答弁を求める者
3. 農業振興対策について	<p>①施策の基本は、国・県の施策を最大限に取り入れて基本計画がなされ、不足分を単市予算で補うものであるが、前段部分について（国・県の施策の主体的活用）とのみ記述されているのはなぜか。</p> <p>②国・県施策の流れが大きく集団施策にシフトされている中、庄原市の施策認識と実績は。</p> <p>③庄原市農業自立振興プロジェクト報告書を協働作業で庄原市農業自立振興計画書に格上げを。</p> <p>④広島県備北地域事務所農林局を庄原への現実は。</p>			市長

順位	7	質問者	赤木 忠徳	
項目	質問の要旨			答弁を求める者
1. 笑顔が見える 庄原市をめざして	<p>1. 地産地消の勧め 2. 他地域の成功例に学ぼう 3. 農村体験型宿泊施設の成功例に学ぼう</p> <p>①施政方針で発表された農業自立振興プロジェクトの農業、畜産、林業振興費には8新規事業をはじめとして多くの補助金・支援策があるが、具体的に広く市民にわかりやすく説明していただきたい。その運用に対するは、できるだけハードルを低く設けていただきたいが、見解を伺う。</p> <p>②徳島県勝浦町、JA東とくしまのよってネ市は、平成18年には生産者200名、120品目、年商2億円を超える店舗になっている。生産者の平均は300万～400万円、中には1,800万円を売り上げる生産者がいる。JAの手数料は10%で、生産者の利益を重要視している。また小学校2校、中学校1校、養護老人ホームの給食の食材がよってネ市を経由している。また廃校を利用した農村体験型宿泊施設、ふれあいの里さかもともある。このように勝浦町の成功例に学ぶ必要があると思うが、見解を伺う。</p>		市長	

順位	7	質問者	赤木 忠徳	
項目	質問の要旨			答弁を求める者
1. 笑顔が見える 庄原市をめざして	<p>③木材の地産地消問題</p> <p>東京大学とエンゼルハウスグループの共同研究したスーパーJドライ檜がある。通常、何もしないままの木の含水率は30%前後と言われます。乾燥させることで20~25%程度になる。しかし、それらは背割れを必要とするため、経年変化により割れや狂いが生じる。過熱蒸気乾燥法による究極の完全乾燥材は含水率15%、背割れを必要としないため、木材の割れや狂いが生じにくい画期的な材木として注目されている。完全乾燥材、国産ムク桧で、割れない、ねじれない、狂わない完全乾燥材の研究開発・製材＆プレカット工場を建築し地元材の有効利用促進策が必要だが、見解を伺う。</p> <p>④地消といえば、地元で購入することと思う。合併して各町からの発注が激減、また皆無となった商業者の現状を把握されているか。周辺部の商業者は、夢を持つ、夢を語るなどという状況ではない。効率一辺倒の購入計画は本庁に集中し、旧庄原市との購入先のみ恩恵を得ていると聞いている。ぜひとも一体感の醸成、一体感な発展をめざす市長の知恵をいただきたいが、見解を伺う。</p>			市長

順位	7	質問者	赤木 忠徳	
項目	質問の要旨			答弁を 求める者
2. 他市から入校 したい学校づくり	<p>1. 小中一貫教育にTRY</p> <p>2. 英語教育にTRY</p> <p>3. 地域を知る教育にTRY</p> <p>4. 庄原市を愛する教育にTRY</p> <p>5. 地産地消給食にTRY</p> <p>①全国で小中一貫教育校が誕生している。小学校から中学校への移行によって生じる心理的負担を軽減し、ゆとりある安定した生活9年間を通して、子どもの多様な資質や能力を伸ばし、系統的・継続的な学習、心の教育や生活指導と関連づけた生き方指導、年齢を越えた子どもたちの活動、社会とのかかわりを重視、豊かな社会性や人間性の育成をめざしている。本市も小学校の統合・中学校の統合をしているが、まだ新しい校舎を利用しての小中一貫教育校の検討をしてはいかがか。耐震校舎建設より教育の充実をめざすのも一考と考えるが、見解を伺う。</p> <p>②今年度から小学校でも本格的な英語教育が始まる。特徴ある効果ある教育にTRYしていただきたいが、見解を伺う。</p>		教育長	

順位	7	質問者	赤木 忠徳	
項目	質問の要旨			答弁を求める者
2. 他市から入校したい学校づくり		<p>③地域を知る教育、地域に愛着を持つ教育を今まで以上にしていただきたい。今後、海外との交流が盛んになると思うが、ホームステイ等で海外留学したとき、地元のことを知らない、紹介できない生徒が多いと聞く。すばらしい本市の財産を知らずにいては、地元に愛着もわかないのでは。</p> <p>今年度から西城・高野で共同調理場での給食が始まるが、地産地消給食にしていただきたい。季節感のない料理でなく、季節を感じる地元料理も知っていただきたいが、見解を伺う。</p> <p>④元尾道土堂小学校長、現立命館小学校副校長の陰山英男先生の教育法の根底にあるのは、基礎的な生活習慣を身につけさせることと反復練習であった。朝食は必ずとらせる。腹持ちがよい米飯食が望ましい。遅くとも22時には就寝させ、テレビはできるだけ見せない。深夜まで塾などで勉強させることは推奨しない、など特徴ある教育推進をした。ぜひとも各校長、教師とともに他校から入学したい学校づくりにTRY、CHALLENGEしていただきたいが、見解を伺う。</p>		教育長

順位	8	質問者	谷口 隆明	
項目	質問の要旨			答弁を求める者
1. 施政方針と財政運営について	<p>①施政方針で一体感の醸成に重きを置いている。その中には、今年から各支所管内を対象とした特徴的な事業実施を予定されており、その成果を願っている。合併後の真の一体感の醸成のためには、旧市町の特徴ある行政施策やまちづくりを尊重し、生かしていく観点が前提で大切にすべきだと思うが、見解を伺う。</p> <p>②地方再生対策費の創設とその適正な算定・運用を指摘されている。予算編成当初には想定していなかった普通交付税の大幅増にどのような方針で対応するのかに行政のカラーが出てくると思う。例えば教育費で、保育所、小中学校の維持修繕や備品購入に予算化されている。当然必要なものはあるが、現場が求めているのは、マンパワーの確保などの教育条件の整備ではないかと思う。あるいは住宅リフォーム制度など地元経済振興策、福祉灯油制度など、少しでも市民の暮らしを守り、地域再生に資する内容で活用すべきと考える。どのような基本方針で対応したのか、改めて伺う。</p>			市長

順位	8	質問者	谷口 隆明	
項目	質問の要旨			答弁を求める者
1. 施政方針と財政運営について	<p>③道路特定財源の維持を強調され、圧倒的に全国の自治体もそれを強く求めている。大激論が交わされている最中だが、バブル期の道路建設計画を見直すことなくそのまま続ける仕組みなど、道路特定財源の現状と経過を見れば、私は、暫定税率の廃止と一般財源化すべきと考える。見解を伺う。</p> <p>④地方制度の新しい再編の動き、道州制や市町村の大再編の検討が国レベルで進められているが、地方自治、住民自治の後退につながり、とても容認できない。この点について見解を伺う。</p>			市長
2. 木質バイオマス活用プロジェクトについて	<p>木質バイオマスの優位性を普及・啓発し、地域の新産業として事業化するため、ペレットボイラーの本庁舎への設置、ペレットストーブ、ボイラーの小学校、公共施設への設置、個人購入への助成などで、ペレットの需要拡大をめざされている。</p> <p>①よそから燃料を使って運んでくるのではなく地元の資源を活用してこそ本物だと思う。市内でペレットの自給はどれだけできるのか、現状を伺う。</p>			市長

順位	8	質問者	谷口 隆明	
項目	質問の要旨			答弁を求める者
2. 木質バイオマス活用プロジェクトについて	<p>②間伐材や林地残材の活用では、ペレット生産は環境負荷の面でも採算面でも事業化は難しいと考える。ペレット製造の事業化の計画とその実現への道筋はどこまで具体化しているのか伺う。</p> <p>③ペレットストーブの個人購入への助成が計画されているが、山間地では昔のように薪を割り、束ねて薪ストーブで燃やす方が、はるかに合理的。薪ストーブの普及にこそ力を入れるべきではないか。</p>			市長
3. 交通弱者への対応について	<p>遠く離れた一軒家など、どこに住んでいても、ひとり暮らしになんとも安心して暮らせるには、交通手段の確保が欠かせない。広い面積に住居が点在している地域では特に要望・不安が渦まいている。全国、県内各地の先進事例の調査、市内交通体系の見直しとあわせて具体化は進んでいると思うが、高齢化が進む中では待ったなしの課題だ。地域での協力や社会福祉協議会の支援だけでは解決できない。現時点での行政としての基本的な考え方を伺う。</p>			市長

順位	8	質問者	谷口 隆明	
項目	質問の要旨			答弁を求める者
4. 米の減反政策などについて	<p>本市独自の農業振興の努力、特に小規模農家に対する新規の支援事業など大いに評価し、その推進には協力を惜しまないことを表明した上で、以下について伺う。</p> <p>①平成19年度地域水田農業活性化緊急対策の実施が進められ、その目的に、主食用米の消費が一貫して減少する中で、過剰作付が年々拡大している結果、米の価格が低下している状況を克服するため、生産調整をさらに拡大しようとするものに交付金を出し、米価の安定化を図るとある。国産米は決して過剰ではなく、ミニマムアクセス米の過剰在庫、政府が備蓄米を吐き出せば、減反の努力も水の泡だ。いくら減反しても価格上昇の保障のない減反は見直し、万全な支援体制で自給率の低い作物の生産拡大に誘導するなど、作らせないために予算を使うことはやめ、各種農産物の生産と消費拡大のために予算を使うべきではないかと考えるが、見解を伺う。</p> <p>②農地・水・環境保全向上対策事業の交付金活用に大きな期待が寄せられているが、広島県の交付条件は一部緩和にとどまり、農家からは失望の声も聞かれる。行政として関係市町と協力して県に強く働きかけ、国の制度を有効に活用すべきだが、考えを伺う。</p>			市長

順位	9	質問者	宇江田 豊彦	
項目	質問の要旨			答弁を求める者
1. 施政方針について	<p>①施政方針において、各分野に及ぶ地域特有の課題は、年々深刻化している実情があり、直ちに完治させることは困難であるが、できることから実行し、小さな成果を集め重ねることで未来を切り開くとされている。また、一体的な発展は、均一的・画一的な地域整備を意味するものではなく、旧市町に所在する資源や魅力、個性などを生かして地域づくりを行い、市域全体がまとまって発展することを意図している。長期総合計画においては、クラスター型の未来都市づくりをめざし、総合計画の実施計画に沿った施設・基盤の整備のみならず、その理念・構想に基づいて、新年度から各支所管内を対象とした特徴的な事業実施を予定しているとある。</p> <p>そこで考えなければならないことは、各地域における特徴的な課題を認識していることだ。旧市町の区域を単位として、それが持つ特筆すべき課題について、どのように考えているのか伺う。</p> <p>②いざなぎ景気を超えた景気動向が伝えられているが、本市においては企業収益や設備投資、雇用情勢などを見ても、その実感・実益を得るに至っていないとの認識を明らかにされている。しかし、この偏重的景気すら、</p>			市長

順位	9	質問者	宇江田 豊彦	
項目	質問の要旨			答弁を求める者
1. 施政方針について	<p>アメリカのサブプライムローン問題、原油価格の高騰、原油高に伴う諸物価の高騰などにより終わりを告げ、不況の予兆が出ていていると思うが、どのように考えているのか伺う。</p> <p>いざなぎ景気を超えたとされる昨今においても法人市民税は減収になっている状況を見ても、より厳しい実態であり、財政健全化への取り組みを新たな決意で臨むべきと考えるが、所見を伺う。</p> <p>③格差社会の問題についても指摘している。</p> <p>格差社会の中、より人権が確立されない状況が生まれることは歴史的に明らかにされている。そこでより手厚い人権確立の施策が必要と考えるが、施政方針においては意識認識の問題として、学習、啓発を推進するとされている。しかし、実態と意識は相互因果関係によって醸成されると私は考えており、教育だけではなく、より実態を変える施策が必要と思うが、認識を伺う。</p>			市長

順位	9	質問者	宇江田 豊彦		
項目	質問の要旨			答弁を求める者	
2. 権限移譲の体制づくりについて	<p>平成16年11月に県から各市町への事務権限の移譲について分権改革推進計画が策定され、この計画に基づき広島県と庄原市で協議し、事務移譲具体化プログラムを定め、年次的に事務移譲が取り組まれてきた。</p> <p>しかし、体制を動化したり、組織機構について受け入れるための取り組みは行われているとは考えていない。</p> <p>さらに、本年、来年と新たな事務移譲が予定されているが、体制の動化や対応できる職員の研修、県からのフォロー等、どのように考えているのか伺う。</p>				市長

順位	9	質問者	宇江田 豊彦	
項目	質問の要旨			答弁を求める者
3. 学校での教職員労働安全衛生について	<p>昨年9月議会において、労働安全衛生法が来年度より、50人以下の職場においても100時間を超える時間外勤務があった場合に医師への面談が義務づけられることになるので、具体的手立てについて質問をした。</p> <p>教育長答弁では、現在極端な超過勤務の実態はない、校長が現認する、ヒヤリングをしている、現在の諸帳簿によって厳正に扱うということであった。</p> <p>しかし、実態としては100時間を超える者が出ており、再度質問する。</p> <p>①時間外の企画委員会の実態を明らかにされたい。</p> <p>②学校衛生委員会設置の実態、とりわけ協議の機会がどれだけ設けられているのか伺う。</p> <p>③学校の実態を教育委員会として明確に把握すべきであり、その具体的手立てを考えるべきと思うが、どのように考えているのか伺う。</p>			教育長

順位	10	質問者	小谷 鶴義	
項目	質問の要旨			答弁を求める者
1. 地域事務所の再編について	<p>先日、新聞に県知事の発表として平成21年地域事務所の再編構想で庄原支所の取り扱いが載り、市長と県知事の対談が載っていた。</p> <p>1年かけて検討との新聞発表であったが、詳しい内容はどうであったか伺う。</p>			市長
2. 新年度予算について	<p>昨年9月の決算において委員から意見等が出されたが、それが新年度予算に反映されているか、次の事項について伺う。</p> <p>①職員研修費を18年度決算時の3倍ぐらいにして、職員意識向上を図るべきという意見が出されたが、対応はどうか。</p> <p>②高額滞納特別徴収班を設置し、どう対応してきたのか。20年度も続けるのか。また、住宅資金特別会計の滞納対策の新年度対策を伺う。</p> <p>③CATV設置は凍結されたが、今後レンジでチンすることが可能か。情報環境整備は、ADSL、無線LAN、デジタル共聴施設整備で終わるのか伺う。</p> <p>④産婦人科医の問題の取り組みは全国的に難問とは思うが、新年度の取り組み、対策を伺う。</p>			市長

順位	10	質問者	小谷 鶴義	
項目	質問の要旨			答弁を求める者
2. 新年度予算について	<p>⑤西城市民病院は精神科がなくなり、老健施設に切り替えする旨が先般報告されたが、今後とも公設公営を望む市民感情にどう対応するのか。</p> <p>⑥女性児童課の男女共同参画は予算が少ないと主査から報告があった。2名の職員配置をされているが、成果と新年度予算の取り組みを伺う。</p> <p>⑦道路新設改良工事は、10年間で相当額の事業執行を位置づけている。実施計画は毎年ローリングとのことであった。新年度予算編成において市道を含め、公平な判断で計画を推進することだが、ローリングされた例をあげて新年度予算における説明を伺う。</p> <p>⑧18年度決算審査時に、河川災害は河川に溜まった堆積した砂に起因する場合が多く、県と協議して調整するとあったが、予算の中で取り上げているのか伺う。</p> <p>⑨公共工事のコスト縮減効果が不明、また建設課の不用額の多さが指摘されたが、改善を検討され、予算に取り組んだのか伺う。</p> <p>⑩狂犬病の予防注射は登録数に対して56%だが、罰則を含めた取り組み対策を伺う。</p>			市長

順位	10	質問者	小谷 鶴義	
項目	質問の要旨			答弁を求める者
2. 新年度予算について	<p>⑪18年度決算審査時に、住宅管理事業で民間が建設して市の借り上げている市営住宅は借上料が高いのではないかとの指摘があった。また、使用料未納対策や市営住宅の家賃補助をしてでも、若者の転入・定住を促進されたいという意見に対し、新年度予算での取り組みを伺う。</p> <p>⑫地方再生対策費の対応で乳幼児医療対策は今年の8月まで1回250円、月1,000円までの本人負担、重度心身障害者医療費においては1回100円、月400円の本人負担になっているが、8月以降も現制度の継続にはならないか伺う。</p> <p>⑬放課後児童クラブは3年生まで、放課後子ども教室は6年生までを対象としているが、兄弟がいる場合は同一場所でみてほしいとの要望意見があったが、対策はしているのか伺う。</p> <p>⑭学校休校・廃校跡地利用は検討に入ったと18年度決算審査時に報告されたが、新年度予算の中で検討しているのか伺う。</p> <p>⑮市史・町史の販売方法はできているのか。</p>			市長 教育長

順位	11	質問者	和田 満福	
項目	質問の要旨			答弁を求める者
1. 合併3年目を振り返って	<p>初代市長として特色ある1市6町を総括し、一体感の醸成を図る中で一体的な発展に厳しい財政状況の中、積極的に取り組んでこられたことに敬意を払う。東城町選出の私自身、合併を推進した議員として、合併による財政の拡大によりできた保育所などの整備、また合併の是々非々による出遅れにより先送りされた整備の中の必要とする子育て支援センターや市道整備などの事業の前倒し、また旧東城町になかった水源確保事業など、かえりみると合併は正しかったと認識している。</p> <p>市長の任期最終年度の市政運営に取り組む所信の一端が市民に浸透することにより、げんきとやすらぎのさとやま文化都市の形成になると思う。今後も1議員として協力する。</p> <p>市長自身この3年間を振り返って合併のまちづくりをどのようにとらえておられるのか伺う。</p> <p>また、任期はもう1年あるが、将来を見据えての市政運営に対する意気込みを伺う。</p>			市長

順位	11	質問者	和田 満福	
項目	質問の要旨			答弁を求める者
2. 災害時の危機管理及び避難場所の点検について	<p>①市役所の組織、機構により支所関係の環境建設課の技術職担当職員が本庁に配置されると漏れ聞く。事務処理の迅速化などのメリットがあるが、旧町の災害時の判断に必要な職員であったことは間違いない事実であり、今後広大な面積を持つ市民の安全を守るために市職員が先頭に立ち、安全を確保するための対策（早期現場到着等）はどのように考えておられるか伺う。</p> <p>②県道下千鳥小奴可停車場線の小奴可中学校付近の道路改良により、大雨の際に県道の水が一極集中し、ため池に流れ込むため崩壊の危険性があると思われる状況がある。仮に崩壊したとすれば、その谷には東城地区の避難場所 71 カ所のうちのひとつである内堀小学校がある。</p> <p>早期に何らかの対策を講じる必要があると思うが、その対策を伺う。</p> <p>また、ほかに危険性がある避難場所がないか伺う。</p>			市長

順位	11	質問者	和田 満福	
項目	質問の要旨			答弁を求める者
3. 市税等の滞納処理及びコンビニ収納の導入について	<p>①平成19年度より徴収困難、高額滞納者に対して民間の専門徴収員の協力を得て徴収対策に取り組まれたが、現在までの進捗状況、成果を伺う。</p> <p>②20年度予算で特別徴収班、収納対策本部の機能強化を図るとして480万円の予算をつけていますが、どのようにされるのか具体的に伺う。</p> <p>③20年度の税等のコンビニ収納の導入準備に755万1,000円の予算をつけていますが、庄原市にあるすべてのコンビニで収納できるようにする考えなのか。</p> <p>また、コンビニ店へ手数料を支払うとすればいくらを考えているのか。</p>			市長

順位	12	質問者	溝口 致哲	
項目	質問の要旨			答弁を求める者
1. バイオマスタウン構想について	<p>①20年度予算としてエタノール工場建設補助金として13億9,850万円が計上されているが、ジュオンは昨年12月に実証試験を開始したばかりだ。わずか1~2カ月で量産化のめどが立ったのかどうか。実証試験の結果は。</p> <p>②リグニン、エタノールの製造コストは。</p> <p>③エタノール製造工場は、日量100トン、140~150m³、1年間に4~5万m³の木材を必要とするということになり、これを主に市内の山林に放置された3万m³の林地残材で確保するという計画のようだが、集材にコストがかかり過ぎ、とても採算ベースにのるとは思えない。</p> <p>また、庄原市域における木材の年間成長量・蓄積量からして、50ないし100キロ圏域から集積しないとこれだけの量の木材を確保することは無理と思われるが、その見通しは。</p> <p>④木材の集積という意味では競合関係に立つ中国木材の大朝工場は、杉材をm³当たりの工場渡しで、1万2,000円で買い取ることが想定されるが、これに見合った買い取り価格が提示できるのかどうか。</p>			市長

順位	12	質問者	溝口 致哲	
項目	質問の要旨			答弁を求める者
1. バイオマスタウン構想について	<p>⑤市内の学校等の公共施設にペレットストーブが設置され、熱量の不足を補うために石油ファンヒーターの併用を余儀なくされているが、ペレットがクヌギ等の雑木を原材料として製造されているのならともかく、水分を10 数%に落とした米松や杉の乾燥材では熱量がどうしても不足すると思われる。</p> <p>熱カロリーの実証試験を行った上でペレットストーブの導入を促進しているのかどうか。</p> <p>⑥同様の趣旨で、リグニン、エタノールを抽出した残滓をペレット化する計画のようだが、熱カロリーは確保できるのか。</p> <p>⑦バイオマスタウン構想の核となる施設として製材所が位置づけられているが、ジュオンとあわせた場合、年間 10 万 m³近い木材の集積が必要となってくるが、可能なのかどうか。</p>			市長

順位	13	質問者	林 高正	
項目	質問の要旨			答弁を求める者
1. 保育現場の現状について	<p>①新年度を迎えるようとしているが、聞くところによると、未満児保育を希望される保護者が急増しているそうだが、現状はどうなっているのか。各保育所の現在までの具体的な数値を伺う。特に次の2点は、より具体的に伺う。</p> <p>(1) 施設（受け入れ態勢）は、充足しているのか。</p> <p>(2) 今後3年間の未満児保育の推計はどうなっているのか。さらにその対応についての考えは。</p> <p>②公設公営の保育士と公設民営の保育士の研修（合同研修も含め）は、どのように行われているのか。どちらに通っても一定水準の保育は当然保たれなければならないが、問題と思われるることは発生していないか。</p> <p>③建築から相当の年数を経た保育所が存在していると思うが、それらの建物の改築の計画があるのか伺う。あわせて再編計画があるかどうかについても伺う。</p>			市長

順位	13	質問者	林 高正	
項目	質問の要旨			答弁を求める者
2. 庄原市のめざす教育とは	<p>辰川教育長が就任されて半年が経過しようとしている、教育長の目から見た本市の教育の現状分析を伺う。</p> <p>そして、これから教育長がめざす本市の教育について伺う。</p> <p>特に私の持論である、小中一貫教育の実現はあるのか、検討しているのか、全くその気がないのか、伺う。</p>			教育長

順位	14	質問者	谷口 勇	
項目	質問の要旨			答弁を求める者
1. 施政方針について	<p>①新年度にまちづくり基本条例の策定に着手される予定だ。協働、補完のまちづくりを進めていく上で、大いに期待を寄せるところだが、市民の皆さんのが条例のねらいをよく理解し、主体的にまちづくりにかかわっていくことが何よりも肝要だ。そのためには、条例の策定に当たっても広く市民の皆さんの参画が求められると思うが、どのような作業手順で策定に臨まれようとしているのか伺う。</p> <p>②旧市町に所在する資源や魅力、個性などを生かして地域づくりを行う。新年度から各支所管内を対象とした特徴的な事業を実施し、現在支所長を中心に企画・調整作業を進めているとのことだ。その事業とは、実施計画に計上されないソフト的な事業と理解すればよいのか。厳しい財政状況の下では、その事業も全体的な調整が必要となるだろうが、その調整基準や財源はどう考えているのか。地域づくりの方向性は、まちづくり基本条例等をよりどころとする地域の合意形成のようなものは必要ないのか。まちづくり基本条例策定との関連性については、どのように考えているのか伺う。</p>			市長

順位	14	質問者	谷口 勇	
項目	質問の要旨			答弁を求める者
2. 幼児教育への支援について	<p>①幼稚園と保育所では、元来その設置目的が異なるが、近年はその保育の中身に差がなくなる方向に向かっているのが現実のようである。しかしながら、相互の成果と課題を検証しつつ切磋琢磨し、子どもが育つ環境の選択肢を確保する上でも、教育機関としての幼稚園の存在意義は大きいものがあると思う。幼児教育の重要性、その教育機関としての幼稚園の存在意義について、改めて見解を伺う。</p> <p>②少子化の中にあって、幼稚園の運営実態は大変厳しいものとなっている。持続可能な財政運営プランによる補助金の見直しによって、幼稚園の運営補助金も例外なく削減されてきたところだ。同じ庄原市の宝である子どもたちへの投資であると考えるならば、温情ある措置があってしかるべきと考えるが、所見を伺う。</p>			教育長

順位	15	質問者	岡村 信吉		
項目	質問の要旨			答弁を求める者	
1. 基幹産業の振興について	<p>本市発展のための振興対策・課題は、まさに多大であると考えており、そのような中で産業振興、とりわけ基幹産業である農林畜産業の振興に関し、以下について伺う。</p> <p>①農業を取り巻く情勢の中にあって、世界の食糧事情が近い将来危機的状況であるとの予測がされている。国内食糧自給率の向上急務に関して、見解と考え方を伺う。</p> <p>②本市農業の中心である米生産について、高齢化進行等の事由による生産意欲減退の傾向が強い。営農体制整備、担い手育成等を急ぐ必要があるが対策を伺う。</p> <p>③農村生活基盤と農業生産基盤は重なって地域を守ってきた。農地荒廃は生活基盤崩壊につながる。耕作放棄地の拡大防止、また休耕地有効利用についての考え方を伺う。</p> <p>④原油高、穀物需給の逼迫の中で、購入飼料中心の和牛飼育等畜産農家は窮状におかれており、国をあげての政策対応の必要性はもちろんあるが、本市としての対策、対応についての考え方を伺う。</p> <p>⑤本市の農業振興は行政・JA連携で進められているが、今の農業をめぐる状況、食糧事情の変化が予測される中で、より一層の連携強化が必要と考えるが、いかがか。</p>				市長

順位	15	質問者	岡村 信吉	
項目	質問の要旨			答弁を求める者
2. 組織、機構の見直しについて	<p>平成20年度組織再編と適正要員配置の見直し方針が示された。言うまでもなく市民のための行政、市民サービス向上は行政に課せられた最大の責務であるという観点から以下について伺う。</p> <p>①広大な本市にあって、本庁、支所間がかけ離れており、加えて各支所拠点地域の高齢比率は極めて顕著である。こうした状況の中で、今支所職員定数を減ずることは市民サービス低下につながらないか、考えを伺う。</p> <p>②本市の発展、財政健全化が急がれる中で、市民の一体感の醸成は不可欠だが、今その状況であるとは考えにくい。こうした面からも早急な権能移管、支所職員定数減は避けるべきと考えるが、いかがか。</p>			市長

順位	16	質問者	藤山 明春		
項目	質問の要旨			答弁を求める者	
1. 定住促進について	<p>施政方針の中で、住民基本台帳人口は1年間に 620 人減少し、人口減を食い止めるには至っていない。また限界集落の増加は、かつて自分たちは何とかなるから、好きなことをしなさいと我が子を育て、都会へ送り出したことも原因の 1 つであると述べられている。</p> <p>さて、団塊の世代の大量退職が昨年ぐらいから始まり、それにより波及するさまざまな事象が 2007 年問題としてクローズアップされてきた。</p> <p>地方出身の団塊世代やこれに近い世代は、田舎へ残した年老いた親を思い、荒れつつある田畠を気にかけながら帰郷したくてもできないジレンマを感じていることと思う。帰郷できない要因のひとつは住む所だ。特に住居のうちトイレの改修は、U ターン、I ターンのみならず、若い人の定住を促すのに不可欠と考える。浄化槽（下水、農集含む）設置から、さらに一步踏み込んで、トイレ改修にも市として力を入れることが定住に有効だと考えるが、考えを伺う。</p>				市長

順位	16	質問者	藤山 明春	
項目	質問の要旨			答弁を求める者
2. 有害鳥獣対策について	<p>農作物に甚大な被害を与える有害鳥獣は、イノシシを筆頭にサル、カラス、サギ、また昨今はシカまで出没し、農家にとって深刻な問題だ。</p> <p>本市は、有害鳥獣対策協議会を設置したり、捕獲事業実施要綱を策定し駆除にあたっているところだが、特にイノシシは繁殖能力が旺盛で、駆除が追いつかない状況にある。</p> <p>そこで次の点について伺う。</p> <p>①最近1年間の市内農作物の被害状況は、金額に換算していくらくらいになるのか。</p> <p>②有効なイノシシの駆除方法は、現時点以上のものはなかなか見当たらないと考えるが、ほうっておくわけにもいかない。今後の対策についてどのように考えているのか。</p> <p>③本市に住みながら、市外に土地（田んぼ）を所有しておられる方への有害鳥獣対策への対応について伺う。</p>			市長

順位	16	質問者	藤山 明春		
項目	質問の要旨			答弁を求める者	
3. ペレットストーブについて	<p>木質ペレットを燃料とするストーブを小学校、公共施設、新庁舎等へ導入されるとのことだが、環境面、新産業の創出や山林の整理等で有効と考える。</p> <p>そこで、このストーブを一般家庭で使用する場合について伺う。</p> <p>①一般家庭で使用するに当たって、点火、消火等の操作は容易なのか。</p> <p>②灰の処理はどうなのか。</p> <p>③単純比較は難しいし、大きさ等もあるが、灯油と比べてペレットのコストはどうなのか。</p> <p>④ペレットは容易に手に入るのか。</p>				市長

順位	17	質問者	垣内 秀孝	
項目	質問の要旨			答弁を求める者
1. 農業振興施策について	<p>①庄原市農業自立振興プロジェクト報告に基づく具体策として、庄原市環境基本条例にこたえる啓発と誘導やJA庄原等の施策方向性の取り組みについて伺う。</p> <p>②農地利活用対策、とりわけ水田農業の仕分けとして、(1)地域ブランド米対策50%、(2)換金作目対策30%、(3)健康生きがい対策10%、(5)景観、観光対策10%とする柱立てを明確化し、アドバルーンを掲げ強力に推進すべきと思うが、所見を伺う。</p> <p>③産地化対策について、例えば(1)戦略的ブランド米対策、例えば市の花、サクラのネーミング活用、(2)換金作目対策、外資・知的財産導入として企業参入方策の強化及び(株)農林業公社での立証試験地の設置拡充、(3)健康生きがい対策(生涯学習)、女性・高齢者向けの多品目少量産地化で新しい発見と喜び対策として小型ハウスの導入促進、(4)景観観光対策、花振興と市の花、サクラでの取り組み、県立農業技術大学校や庄原実業高校との連携を強化し、産・学共同での積極的な取り組みが考えられる。停滞することなく上向きの環境を整え、農業者が意欲のわき出る方策について所見を伺う。</p>			市長 教育長

順位	18	質問者	松浦 昇		
項目	質問の要旨			答弁を求める者	
1. 政治姿勢と市政運営について	<p>市長の政治姿勢と市政運営について次の事項の所見を伺う。</p> <p>①非核宣言自治体として、政府に非核日本宣言と憲法9条を守り発展させるための方策等、意見書として議会に提案するように求め る。</p> <p>②全域事業を優先する財政運営を改め、地域事業を計画に沿って実行すること。防犯灯対策に見られるような周辺部の切り捨てを中止し、旧町の独自性を守るためにも支所長設置は10年間継続すること。</p> <p>③口和町で合併直前に口和の共産党が取り組んだアンケート調査では、合併による心配、不安について、次の項目が大きく示された。 (1)住民の声が届きにくくなり、負担増とサービスが低下する、(2)周辺部の過疎化が進む、(3)きめ細かいサービスが低下する、と示されたが、解消しつつあると認識されているか。</p>				市長

順位	18	質問者	松浦 昇	
項目	質問の要旨			答弁を求める者
2. 公平、公正な入札、契約をめざす条例制定について	<p>例外もあるが、ほとんどが価格だけで評価して工事や委託先を選択する現行の入札、契約制度は賃金や労働条件、質の確保という点で、事業者や働く者に犠牲を強いている。一般競争入札に移行した自治体では、低価格入札が絶えず、さまざまな問題を生じている。市は、公正な労働基準の確立、環境や福祉など社会的価値の実現に取り組む責務がある。新年度以降、新たな入札制度を実施される計画だが、以下の点について所見を伺う。</p> <p>①公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律の制定時の付帯決議の6項の精神を生かした条例か、もしくは基本指針をもつこと。</p> <p>②平成19年度建設工事発注総額の中で、建退共の共済証紙総額はいくらか。業者は下請けを含め、共済掛金収納届を提出しているのか。共済証紙購入総額はいくらか。</p>			市長

順位	18	質問者	松浦 昇	
項目	質問の要旨			答弁を求める者
3. 若者の要求に こたえる市政 づくりについて	<p>若者対策について、施政方針の中に示されていないので、以下の点について所見を伺う。</p> <p>①市政への参画、教育、文化、産業の振興、スポーツ等についての要求の中身を把握するアンケート調査の実施</p> <p>②農業（家）や商工業などの後継者の有無について</p> <p>③市内の企業における青年の就業形態の把握調査について</p> <p>④新年度予算執行の中で、青年対策についての方策、方針について</p>			市長